

短梢せん定導入による ブドウ栽培の省力化



佐賀県果樹試験場 落葉果樹研究担当 福田 浩 幸



長梢せん定自由整枝の着果状況



短梢せん定による着果状況

ブドウ栽培の省力化をはかる上で、短梢せん定は是非導入したい技術です。短梢せん定では現在、無核栽培が基本ですが改良型の短梢栽培では有核でも取り組める技術として検討していますのでご紹介します。

自由整枝の着果状況

これまでの長梢せん定自由整枝では、樹勢の調節ができ結実の安定に

は有効な栽培方法でした。しかし、果房がランダムに着果するので房管理に手間がかかるうえ、着果量の把握が難しいことや、新梢が四方八方に伸びるため管理が煩雑で効率が悪いのが欠点でした。

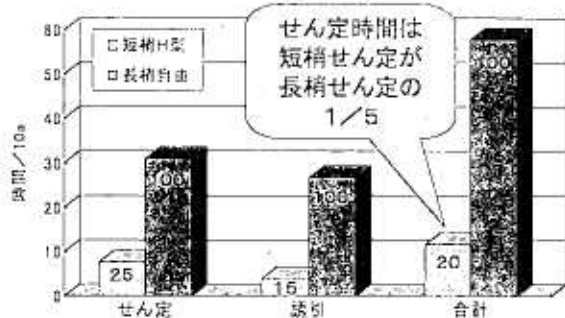
短梢せん定の着果状況

短梢せん定では、果房が主枝に平行に一直線上に並ぶため、房管理が効率的に行えます。新梢はすべて主枝と直角方向に整然と伸長するので新梢管理もやりや

すくなります。さらに、着果量の調節が比較的容易で収量の把握がしやすいといった利点があります。現在行われている短梢せん定は無核栽培ですが、この場合、有核栽培と違い樹勢を強く維持する必要がありません。

短梢栽培の利点

- ①せん定時間の短縮
自由整枝は専門的な技術が必要で、せん定から誘引に時間と手間がかかりますが、短梢せん定は基部の芽を二芽残して切る単純な作業ですので、短時間で行うことができます。
- ②新梢管理の省力化
新梢は同一方向に整然と並び、伸長するため摘心や誘引が効率的に行えます。時間の短縮以上に楽に行えます。
- ③ジベレリン処理の省力化
自由整枝と違い花(果)房が一列に並ぶので、ジベレリン処理が効率的に行えます。

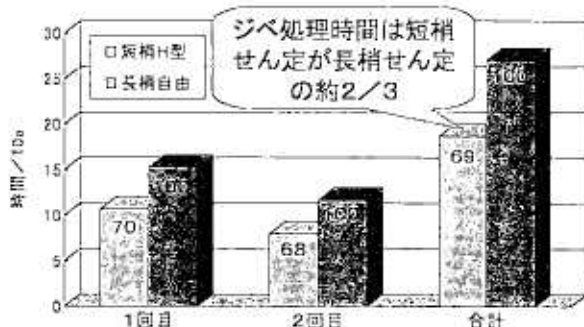


ブドウの短梢せん定H型整枝と長梢せん定自由整枝におけるせん定時間の比較

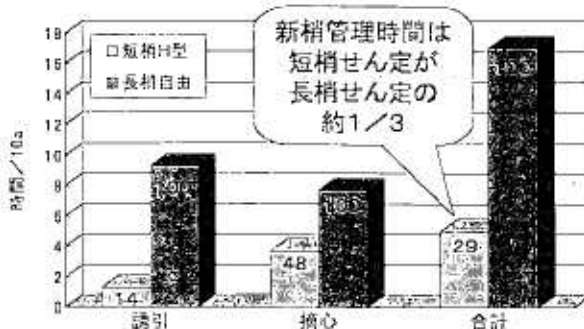
ブドウの短梢せん定H型整枝と長梢せん定自由整枝におけるせん定時間の比較

試験区	せん定 (時間/10a)	誘引 (時間/10a)	合計 (時間/10a)
短梢H型整枝	7.7	4.0	11.7(20)
長梢自由整枝	31.0	26.7	57.7(100)

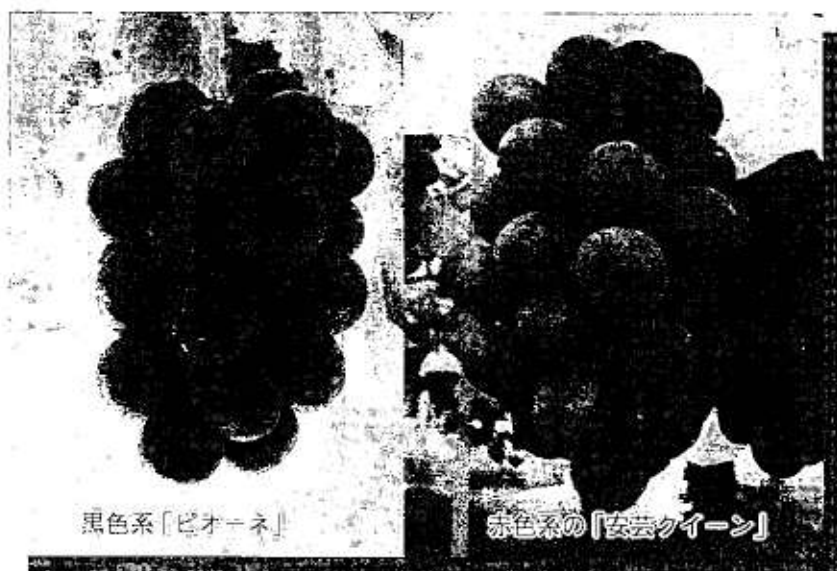
※()内は長梢せん定自由整枝を100とした場合の比率



ブドウの短梢せん定H型整枝と長梢せん定自由整枝におけるジベレリン処理時間の比較



ブドウの短梢せん定H型整枝と長梢せん定自由整枝における新梢管理時間の比較



無核栽培に適した品種

黒色系では、「ピオーネ」(写真左)が代表的な品種です。赤色系では、「安芸クイーン」や「ゴルビー」(写真右)といった品種があります。いずれの品種も樹勢を強く保ち、ジベレリン処理で無核栽培を行います。

今後導入したい栽培方法

栽培方法としては、最低限の雨よけを行うとジベレリン処理など天候に左右されず行える上、病害(べと病、晚腐病など)の発生を軽減できるので農薬散布の回数を減らすことができます。

今後は、短梢せん定と根域制限を組み合わせる方法で品質向上と省力化を同時にはかかると必要ではないかと思われま。

短梢せん定と有核栽培

有核栽培の「巨峰」はこれまで長梢せん定でなければ結実が不安定でしたが、長梢と短梢を織り交ぜた折衷式の取り組みを行っており、有核「巨峰」の短梢せん定栽培も可能であると思われま。

巨峰の改良型短梢せん定栽培

この方法は、実止まりがよい長梢の結果母枝部分を中心に枝を利用し、それに短梢せん定を組み合わせていく新しい栽培方法です。

長梢せん定の結実の良さと短梢せん定の省力的な部分を融合させた、画期的な方法です。まだ確立した技術ではありませんが、誰でも取り組みやすいブドウ栽培方法として検討されています。
 実際、根域制限と組み合わせた方

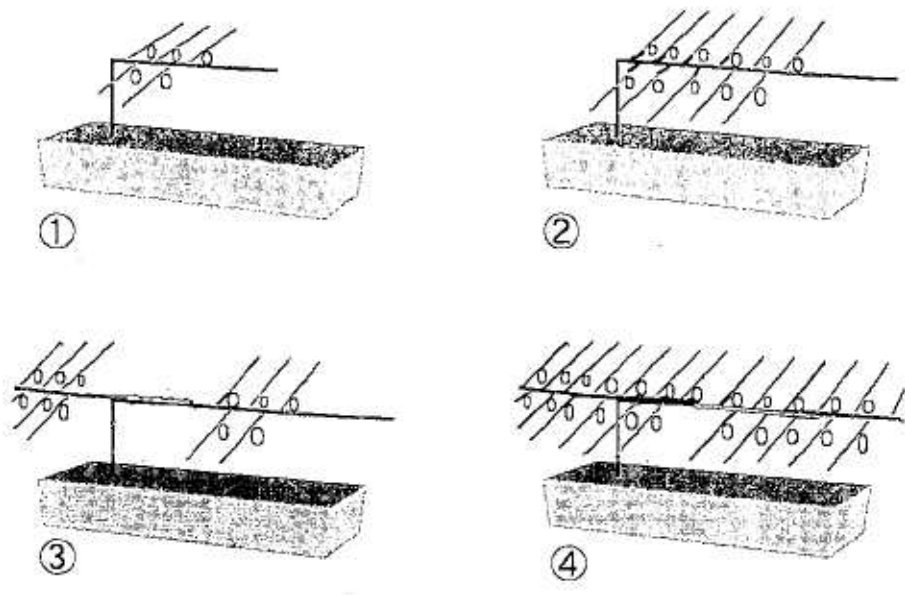
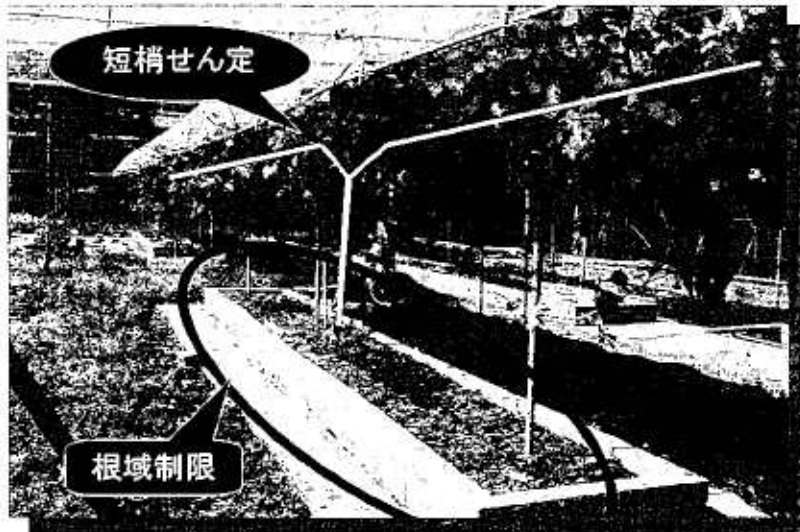


図 巨峰の改良型短梢せん定栽培法



法で現地でも導入されています。以下に大まかな栽培方法について述べたいと思います。
 ① 植え付け二年目・基本は、一文字で片方に主枝をまっすぐ伸ばします。長梢で残した先端の結果母枝から発生した新梢に結実させます。先端の新梢はまっすぐ伸ばし、来年の結果母枝として利用します。
 今年結実した枝は、せん定時に三〜四芽で切ります（二芽では強すぎると思われます）。

② 植え付け三年目に、①の管理を繰り返して、長梢部分と短梢部分が組み合わさった樹形とします。（形は短梢せん定の樹冠拡大時と同じです）

③ 植栽間隔にもよりますが、数年で隣の樹と枝が重なってきます。後ろの樹の長梢部分と前の樹の短梢部分が重なるので、長梢部分を生かして短梢分を切除していきます。

つまり、新しい長梢部分を優先的に生かし、古い短梢部分は段階的に切除していくこととなります。

④ 樹面が完全にうまった後も、③の要領を繰り返していきます。基本的なやり方としては樹を2列に植え、片方を東から西に伸ばすとすれば、反対の列は西から東に伸ばしていきます。

先端部分は、円を描くようにして反対の列に伸ばしていきます。こうすることで、二列で円を描くように樹を仕立てていくこととなります。

この方法は、実際に現地で導入されている生産者もおり、成果をあげています。みなさんも是非挑戦してみたいかがでしょうか。